

JFA

日本フリスビードッグ協会会報

2007 January

○ <http://www.frisbeedog.jp>

SKY DOG[®] SPORT

vol.15



**FRISBEE DOG
OFFICIAL
RULE BOOK**

■ 競技会参加資格

- 大会申込書記載の誓約書に同意した選手（チーム）のみ参加資格が認められる。
- 大会申込書記載の誓約書に対しての異議申し立ては一切認められない事とする。
 - ・競技とは、大きく分け選手権と各種大会（部門）に分けられる。
 - ・公式選手権はJFA会員以外の参加は認められない。但し、JFAが認めた招待選手はその限りではない。
 - ・公式選手権はオーナー（家族会員含む）以外との参加は認められない。
 - ・公式選手権はJFA登録犬以外での参加は認められない。
 - ・各種大会はJFA会員以外の参加も認められる。又、JFA会員に於いては登録犬以外の犬でも認められるが、ジャパンファイナル対象種目は、登録犬のみとします。
 - ・ジャパンファイナル対象種目とは、公式シリーズ選手権・公式オープン選手権・公式トーナメント選手権・公式クイーンズ選手権・公式レディース選手権・公式レディーストーナメント選手権・公式小型選手権・公式フリーフライト選手権・ユースオープン大会・シニアドッグ大会・ペア大会・こども大会とする。
 - ・ジャパンファイナルに於いては会員以外の参加は認められない。
- 全ての競技に於いて「狂犬病・各種予防ワクチン接種済み」以外の犬の参加は認められない。
- あきらかに動物虐待と見られる行為を行っているオーナーの参加は認められない。又、一般良識人として、愛犬家のモラルとマナーを守れない選手の参加は認められない。
- 参加受付確認時間内に本人の確認が取れない場合は棄権とみなします。
- ジャパンファイナルなど特例を除き、発情犬の参加は認められない。また、発情犬を競技会会場にお連れの場合は、車中にて管理もしくは、車中管理が出来ない場合（困難な場合）はご自宅などで休ませてあげましょう。発情期間（終了の目安）は、出血を認めてから3週間以上経過とする。
- 運営・競技・見学者に対し著しく迷惑をかける人や犬の参加は認めない。
- 競技会場に於ける全ての迷惑勧誘行為やスポーツに適さない過度な飲酒行為に対し主催者判断にて見学者も含み退場処分を行う。

■ 競技会基本ルール（★は2007年度改訂箇所）

- 選手は1枚のfrisbeeディスクで全て競技（ビギナー大会、トライアルボールドッグゲームを除く）を行なう。
- アトラクション競技のスリーマンオープン大会は、frisbeeディスクを使用とする。
- 小型犬や子犬に関しては、競技の際、JFA公認frisbee又はドッグディスクMサイズのどちらかを選ぶ事ができる。
- フリーフライトは、frisbeeディスク又はドッグディスクMサイズを競技公認ディスクとする。
- 競技中ハードマウス等の理由で競技において予備frisbeeの必要な方は、その都度有償にて購入しライズマンに預けることができる。尚、破損などで次のラウンドの為に競技用frisbeeの必要な方は有償にて購入する。
- 競技使用の“frisbeeの表面”へ、マジックインク等でのマーキング（サイン）等は禁止する。
- 入退場の際、特別な指示がない限り、コートへの入場は本部設置側入口から入り、競技終了後の退場は反対側（ライズマンがいる方向）から出て、入退場は一方通行とする。
- 入退場の際、選手又は犬が故意にフェンス又はフラッグをまたいではいならない。
- コートにおける指定競技練習時間では、使用する練習ディスクは7枚までとする。尚、コート開放時間において練習する場合の使用枚数は規制しない。
- 選手と犬は、スタートの際はスタートラインの後方（スタートラインを踏まない位置でのスローイングエリア内）で、且つスローイングライン9mコーン間のスローイングエリア内に入らなければならない。選手は、全てこのエリアからスローイングを行わなければならない。
- 競技の開始は、MCの合図で行われる。MCが準備完了と判断した後は、選手の間合いでの開始とはならない。プレイヤーは、入退場・スタート準備は迅速に行うものとする。
- スタートの際、レディーゴーの合図より先に犬が出てしまうフライング（ドッグファール）を行った場合は、9mコーン間スローイングエリア内に戻しスローイングを行わなければならない。
- 全ての競技に於いてポイント獲得とは、原則的に犬がfrisbee（以下、ディスク・ボールを含む）を咥えスタートライン9mエリア内に犬の4本足が入った段階でポイント獲得とする。但し、シニアドッグ大会においては、7.5mラインでポイント確定とする。
- ★キャッチ後、スタートライン9mコーン内に犬が咥えたfrisbeeと犬の4本足がスローイングエリアに全て入った段階で得点は有効となるが、ノーキャッチの場合でも、犬はスタートライン9mコーン内からスローイングエリアに戻らなければ、次投のスローイングは無効となる。キャッチ後並びにノーキャッチの場合でも9mコーン間外よりスローイングエリアへ戻った場合は、どの位置からでもかまわないので一度インフィールド（0ポイントゾーンないしビギナーコートであれば1-2ポイントゾーン）へ犬を誘導（この場合も犬の4本足全てがインフィールドへ入るように誘導する。）し、再び9mコーン間よりスローイングエリアへ戻し直してから次投を行う。この時にポイント確定前のfrisbeeに故意に触れた場合はファールとなり得点とはならない。但し、例外として場外に出たfrisbeeを犬が持ち帰るなど、入退場口を通る、もしくはスローイングエリア後方（エンド）よりスローイングエリアに戻った場合のみ、9mコーン間への戻し直しの必要なく、コーン外回りままで次投有効とする。
- ★キャッチ後、犬がfrisbeeを咥えスタートライン9mコーン内に戻っていないfrisbeeにプレイヤーが故意に触れる（手・足など問わず）事は、ファールとみなされ得点とはならない。犬の誘導時に、犬の体・首輪（カラー）

に触れることは可能とする。(ショートリード・ロングリード使用の場合は、リード使用時の規定に準ずる。)但し、ノーキャッチの場合及び場外へ出たfrisbee・リードは触っても良い。

- 公式種目は、リードをつけたまま競技を行う事は出来ない。各大会においてリードを使用する場合は、脱走や取り押さえがきかない場合のみの使用とし、スタートライン上9mコーン間のスローイングエリア内に犬の4本足が全て入る前に触れた場合は、獲得ポイントは無効となる。
- タイムアウト後(最終キャッチ後)、犬は速やかにスタートラインまで戻らなければならないが、この際ポイント獲得エリア内に入るまでに、あたかもスタートライン方向以外への進行行為があった場合、最終キャッチは無効となる。(場外へ出た場合は、その時点で無効となる)
- 競技中にfrisbeeを追う目的以外にジャッジの10カウント以上フィールド外に出た場合(場外脱走)失格となるが、それまで獲得したポイントは有効となる。同ラウンドで2回目の場外脱走があった場合は、その段階で競技終了となる。(失格)脱走の直前にキャッチした得点は、犬がfrisbeeをスタートライン上9mコーン間のスローイングエリア内に犬の4本足が全て入った後の脱走であれば有効。
- 競技中に糞尿行為があった場合は、その段階で失格となるが、それまでに獲得したポイントは有効となる。但し、糞尿行為直前にキャッチした得点は、犬がfrisbeeをスタートライン上9mコーン間のスローイングエリア内に犬の4本足が全て入った段階であれば有効となる。
- タイム終了合図の前に手から離れたfrisbeeは有効である。タイム終了とは、タイマーブザー音の鳴り始めてあり、鳴り始めの判断はジャッジが判断する。
- 決勝ラウンドにおいて、優勝から3位の中で同ポイントのチームがあった場合は、公式ディスタンス選手権においては、順位決定戦を1度のみ行う。公式ディスタンス選手権4位5位並びに他の大会の同点での順位決定は、決勝ラウンドの得点の高い方を上位とする。また、決勝ラウンドの得点が同点の場合は、決勝ラウンドの得点内容(高ポイントエリアの多いチーム)で順位決定をする。それでも順位が決定しない場合は、第2ラウンドの得点・得点内容、第1ラウンドの得点・得点内容の順で判断をする。
- 公式種目でコート内に入れるのは、選手と競技犬のみとする。各大会においては、選手・競技犬の他に1名までスローイングエリア内に入る事は出来るが、競技中にfrisbee(ディスク・ボールを含む。)や犬に触れる事、スローイングエリア外のインフィールドに入ることは出来ない。但し、競技前・競技後で犬を静止・係留する目的で触れる事は認める。

■ 採点方法と採点基準

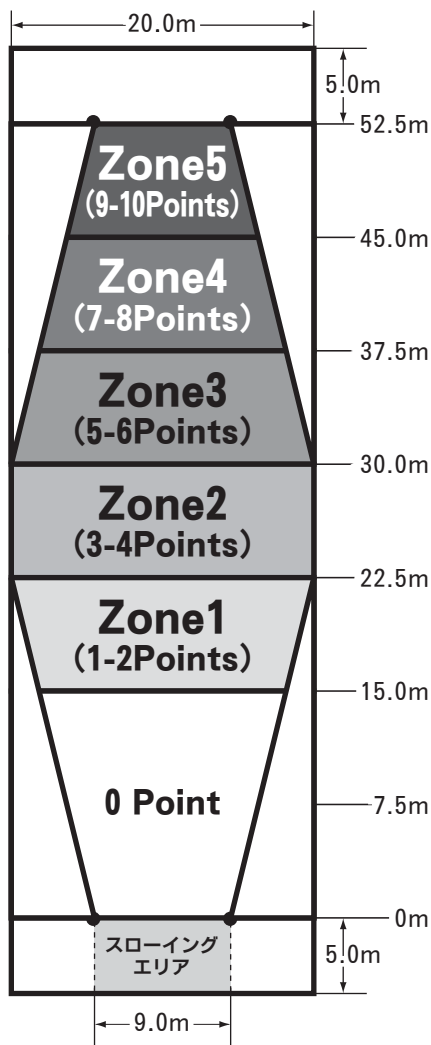
- ライン上、ライン際でのキャッチや、着地と同時にキャッチ等、疑わしいキャッチ状態では、全て少ない得点となる。
- あきらかにジャンプをしていて空中にてキャッチを行ったと認められた場合のみジャンピングキャッチとみなす。(高さだけが判断基準ではなく、幅なども含む)
- 小型犬(コーギーなど)や大型犬(シェパードなど)のジャンプに対して、犬の体形などから危険防止の為、判断基準が異なる場合もある。
- 犬がスタートライン方向に完全に対面し戻りながらジャンプを行ってキャッチをした場合は、戻りジャンプとし採点はランニングキャッチ扱いとなる。
- ディスタンス競技におけるキャッチとは、ある程度のfrisbeeディスク保持の時間を持ってキャッチとみなす。
- キャッチ後、地面につけて咥え直し等、ある程度の保持なく地面に付いた際、口からfrisbeeが離れた場合はキャッチとみなされない。

■ 天候悪条件における特別処置について

- 公式シリーズ選手権において第1ラウンド終了時点で、規定の獲得得点シリーズ9ポイントをクリアできるチームが、決勝ラウンド進出チーム数(7チーム)に満たなかった場合。
 - ・規定の得点をクリアしたチームは、決勝進出確定となり、2ラウンド目を行い、その合計ポイントで決勝ラウンドへ進出。
 - ・規定の得点をクリアできなかったチームは、全チームにて第2ラウンドを行い、決勝進出残りの枠とファイナルポイント獲得得点枠を争う。但し、第2ラウンド終了後にファイナルポイント獲得枠を逃したチームは、規定の第2ラウンド進出ファイナルポイント0.5ポイントは取得できない。また、決勝進出残り枠を獲得したチームは、1,2ラウンド獲得合計得点を持って決勝ラウンドへ進出。
 - ・決勝ラウンドは、規定チーム数にて通常の決勝を行う。上位進出チームは、第1ラウンドでの規定得点クリアチーム。次にクリアできなかったチームの中の第1、第2ラウンド合計ポイント上位チームとなる。決勝ラウンドの結果、順位決定は、決勝進出チーム全てのチームに優勝獲得の権利が与えられる。
- 公式シリーズ選手権において第2ラウンド進出チーム数が決勝ラウンド出場チーム数(7チーム)を満たす場合。
 - ・規定の得点をクリアしたチームは、第2ラウンドにて決勝進出、並びに上位ポイント獲得を争う。
 - ・規定の得点をクリアできなかったチームは、全チームにて第2ラウンドを行い、ファイナルポイント獲得枠を争う。但し、第2ラウンド終了後にファイナルポイント獲得枠を逃したチームは、規定の第2ラウンド進出ファイナルポイント0.5ポイントは取得できない。また、第2ラウンド終了時点で獲得得点合計が、第1ラウンドにて規定の得点をクリアし、第2ラウンドへ進出したチームよりも上位となった場合でも、決勝進出の権利は発生しない。
- 公式オープン選手権、公式クイーンズ選手権、公式レディース選手権、公式小型選手権においては、2ラウンド終了時点で合計ポイントが0ポイントチーム以外で決勝進出枠を決定する。(決勝進出チーム数に満たない場合もある)0ポイントチームは、0.5ポイントのみの獲得となる。



Distance 公式コート使用競技



● 開催競技

- 公式シリーズ選手権
- 公式オープン選手権
- 公式クイーンズ選手権
- 公式レディース選手権
- 公式小型選手権
- 公式トーナメント選手権
- 公式レディーストーナメント選手権

● ポイントエリア

| | |
|---------------|-------------|
| スタート～15m未満 | 0 ポイント |
| 15.0m～22.5m未満 | 1 / 2 ポイント |
| 22.5m～30.0m未満 | 3 / 4 ポイント |
| 30.0m～37.5m未満 | 5 / 6 ポイント |
| 37.5m～45.0m未満 | 7 / 8 ポイント |
| 45.0m～52.5m未満 | 9 / 10 ポイント |
| 52.5m以上 | 0 ポイント(場外) |

奇数得点は通常（ランニング）キャッチでの得点を表すが、ジャンピングキャッチを行った場合は、それぞれのエリア毎に1得点が加算され偶数得点とする。すなわち3得点エリアでのジャンピングキャッチは4得点。最長エリアでのジャンピングキャッチは10得点となる。

● 競技ルール

- スローイング方向は第1ラウンドと第2ラウンドは逆方向から行う。尚、第1ラウンドのスローイング方向並びに決勝ラウンドのスローイング方向はコイントスにより確定される。コイントスは原則的に大会当日の公式戦エントリーナンバー1番のチームが行う。例外として、第1ラウンド・決勝ラウンドに限り太陽光が直視に当たる場合はコイントスで決定した方向とは限らず、インフィールドに向かって太陽光を背にした方向から行う。第2ラウンドは第1ラウンドと逆方向から行う。

- スタート第1投目は必ずスタートライン9mコーン間内より犬が出て行かなければならないが、犬の癖などの問題で9mコーン間内で

のスタートが困難な場合、偽投とし15m以上投げる事により、2投目からは有効得点とみなされる。この場合、2投目は9mコーン間外から出てかまわない。

- 犬があきらかに15mラインを超える前にfrisbeeを投げなければドッグファールとみなされ得点対象とはならない。
- キャッチ後犬がfrisbeeを咥えスタートライン上9mコーン間を越えてスローイングエリアに戻った段階、もしくは、手前でfrisbeeを犬が落とした場合（注1）に、スローイングエリア内に投げ手の手が触れることなく入り、尚且つ犬もスローイングエリアに4本足が全て戻ってきた段階（注2）でポイント確定となる。

注1) frisbeeがスローイングエリア内に転がって入り、ライン上又は手前で犬が停止しfrisbeeのみをスローイングエリア内に落とす、など。

注2) frisbeeがスローイングエリア内に戻っている場合でも、スローイングエリア内に犬の4本足が全て入り戻る前に、投げ手がfrisbeeに触れるとファールとなり、そのスローは無効となる。

- ノーキャッチの場合、又は、場外へ出たfrisbeeは触っても良い。
- 2投目以降、スロー前に必ず、犬がスタートライン9mコーン間内よりスローイングエリアに入らなければならず、そのまま次投した場合、そのスローは無効となる。但し、スロー前であれば、犬を9mコーン間内よりスローイングエリア内に戻してからスローすれば有効、また、9mコーン間外よりスローイングエリアへ戻った場合は、どの位置からでもかまわないので一度インフィールド（0ポイントゾーン）へ犬を誘導（この場合も犬の4本足全てがインフィールドへ入るように誘導する。）し、再び9mコーン間よりスローイングエリアへ戻し直してからのスローは有効となる。但し、例外として場外に出たfrisbeeを犬が持ち帰るなど、入退場口を通る、もしくはスローイングエリア後方（エンド）よりスローイングエリアに戻った場合のみ、9mコーン間への戻し直しの必要なく、コーン外回りままで次投有効とする。

- キャッチ後、ポイント確定前にfrisbeeに故意に触れる（手・足など問わず）事はファールとみなされ得点とはならない。
- 競技には、使用frisbee（交換用含む）以外、犬を呼び寄せるモノ（フード類・玩具類など）を持ち込んではいけない。（犬笛は指笛・口笛とみなし可）また、競技中のリードの使用は禁止する。
- 競技中に糞尿行為のあった場合はその段階で失格となるが、それまでに獲得した得点は有効となる。但し、糞尿行為直前にキャッチした得点は犬がfrisbeeを咥え、スタートライン上9mコーン間からスローイングエリアに戻った後であれば有効となる。
- コート内に入れるのは、選手と競技犬のみとする。

-
- **公式シリーズ選手権**は、競技時間60秒。予選2ラウンド、決勝1ラウンド（7チーム）にて行う。
 - 予選第1ラウンドにて獲得得点9ポイント以上が第2ラウンドへ進むことができる。
 - 決勝ラウンドは予選2ラウンドの合計獲得得点上位7チームにより行われるが、決勝進出最下位ポイント（いわゆる決勝ボーダーライン）重複の場合は全てのチームが決勝進出とします。
 - 決勝ラウンドへは「同一オーナー・同一犬」による決勝進出は出来ない。但し、予選トップ通過以外であれば、どちらのチームを決勝進出させるかを選択できる。このとき決勝進出辞退チームのファイナルポイントは、ファイナルポイント表に従い確定し、順位は繰り下がりとなります。

-
- **公式オープン選手権**は、競技時間60秒。予選2ラウンド制。決勝1ラウンド（エントリー数によっての決勝枠）にて行う。
 - 決勝ラウンドは予選2ラウンドの合計獲得得点上位5チームにより行われるが、決勝進出最下位ポイント（いわゆる決勝ボーダーライン）重複の場合は全てのチームが決勝進出とします。
 - 決勝ラウンドへは「同一オーナー・同一犬」による決勝進出は出来ない。但し、予選トップ通過以外であれば、どちらのチームを決勝進出させるかを選択できる。このとき決勝進出辞退チームのファイナルポイントは、ファイナルポイント表に従い確定し、順位は繰り下がりとなります。

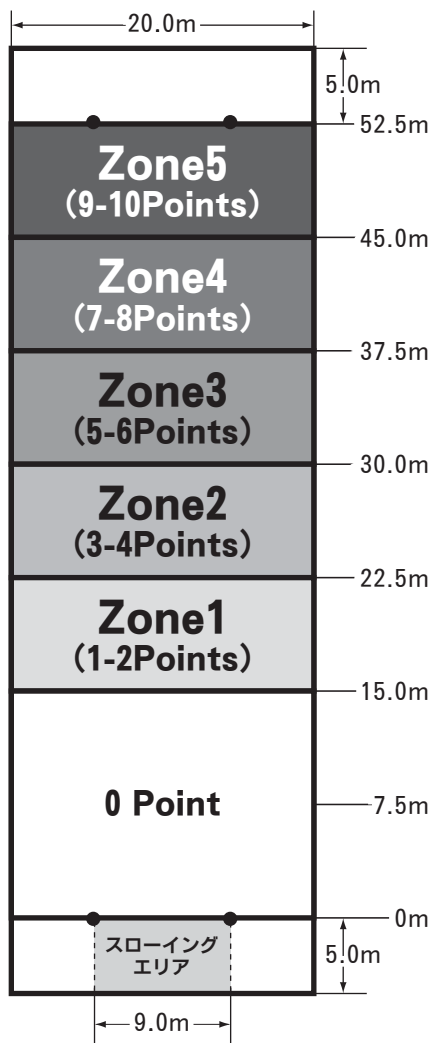
-
- **公式クイーンズ選手権**は、競技時間60秒。予選2ラウンド制。決勝1ラウンド（7チーム）にて行う。
 - 事前参加申込15チームにて成立とし、満たない場合は『公式レディース選手権』として開催する。
 - 決勝ラウンドは予選2ラウンドの合計獲得得点上位7チームにより行われるが、決勝進出最下位ポイント（いわゆる決勝ボーダーライン）重複の場合は全てのチームが決勝進出とします。
 - 決勝ラウンドへは「同一オーナー・同一犬」による決勝進出は出来ない。但し、予選トップ通過以外であれば、どちらのチームを決勝進出させるかを選択できる。このとき決勝進出辞退チームのファイナルポイントは、ファイナルポイント表に従い確定し、順位は繰り下がりとなります。

-
- **公式レディース選手権**は、競技時間60秒。予選2ラウンド制。決勝1ラウンド（エントリー数によっての決勝枠）にて行う。
 - 決勝ラウンドは予選2ラウンドの合計獲得得点上位5チームにより行われるが、決勝進出最下位ポイント（いわゆる決勝ボーダーライン）重複の場合は全てのチームが決勝進出とします。
 - 決勝ラウンドへは「同一オーナー・同一犬」による決勝進出は出来ない。但し、予選トップ通過以外であれば、どちらのチームを決勝進出させるかを選択できる。このとき決勝進出辞退チームのファイナルポイントは、ファイナルポイント表に従い確定し、順位は繰り下がりとなります。

-
- **公式小型選手権**は、競技時間60秒。予選2ラウンド制。決勝1ラウンド（エントリー数によっての決勝枠）にて行う。
 - 決勝ラウンドは予選2ラウンドの合計獲得得点上位5チームにより行われるが、決勝進出最下位ポイント（いわゆる決勝ボーダーライン）重複の場合は全てのチームが決勝進出とします。
 - 決勝ラウンドへは「同一オーナー・同一犬」による決勝進出は出来ない。但し、予選トップ通過以外であれば、どちらのチームを決勝進出させるかを選択できる。このとき決勝進出辞退チームのファイナルポイントは、ファイナルポイント表に従い確定し、順位は繰り下がりとなります。

-
- **公式トーナメント選手権／公式レディーストーナメント選手権**は、競技時間60秒。トーナメント方式の勝ち抜き戦で行うが、1回戦は総参加者数により対戦チーム数が異なる。
 - 事前参加申込12チームにて成立とします。
 - 決勝戦は参加者数により2チーム対戦の場合、3チーム対戦の場合で行われる事がある。同一オーナー・同一犬でも決勝3チーム対戦の場合のみ2頭までは出場可能とする。（準決勝の得点が高い2チームが決勝進出）
 - 決勝戦を除き0ポイント同点の場合は再戦を行わない。（両チーム共に勝ち上がりができない）なお、1ポイント以上獲得している対戦チーム間での同点の場合は、高いポイント（エリア→ジャンピングポイントの順で判定）のチームもしくは高いポイント（エリア→ジャンピングポイントの順で判定）が多いチームが勝ち上がり決定。高いポイント（エリア→ジャンピングポイントの順で判定）もしくはその数がまったく同じの場合は再戦を行う。再戦は一回のみとし、判定がつかない場合はオーナー同士によってのジャンケンにて決定する。

Distance オープンコート使用競技



● 開催競技

- ・ユースオープン大会
- ・シニアドッグ大会（7歳以上の競技犬対象）
- ・ペア大会
- ・スリーマンオープン大会（アトラクション競技）

● ポイントエリア

| | |
|---------------|------------|
| スタート～15m未満 | 0ポイント |
| 15.0m～22.5m未満 | 1 / 2ポイント |
| 22.5m～30.0m未満 | 3 / 4ポイント |
| 30.0m～37.5m未満 | 5 / 6ポイント |
| 37.5m～45.0m未満 | 7 / 8ポイント |
| 45.0m～52.5m未満 | 9 / 10ポイント |
| 52.5m以上 | 0ポイント(場外) |

奇数得点は通常（ランニング）キャッチでの得点を表すが、ジャンピングキャッチを行った場合は、それぞれのエリア毎に1得点が加算され偶数得点とする。すなわち3得点エリアでのジャンピングキャッチは4得点。最長エリアでのジャンピングキャッチは10得点となる。

● 競技ルール

- ペア大会・スリーマンオープン大会を除き、スローイング方向は第1ラウンドと第2ラウンドは逆方向から行う。尚、第1ラウンドのスローイング方向並びに決勝ラウンドのスローイング方向はコイントスにより確定される。コイントスは原則的に大会当日の公式戦のエントリーナンバー1番のチームが行う。例外として、第1ラウンド・決勝ラウンドに限り太陽光が直視に当たる場合はコイントスで決定した方向とは限らず、インフィールドに向かって太陽光を背にした方向から行う。第2ラウンドは第1ラウンドと逆方向から行う。
- 選手、競技犬の他に1名までスタートライン後方内に限り入ることは出来るが、競技中にフリスビーや犬に触れる事は出来ない。
- スタート第1投目は必ずスタートライン9mコーン間内より犬が出て行かなければならない。（コーン外から犬がスタートした場合、再度スローイングエリア内に犬を呼び戻してのスローは有効）なお、2投目以降は9mコーン間外から犬が出て行ってもかまわない。
- シニアドッグ大会(注1)を除く全ての競技において、キャッチ後犬がフリスビーを咥えスタートライン上9mコーン間を越えてスローイングエリアに戻った段階、もしくは、手前でフリスビーを犬が落とした場合(注2)に、スローイングエリア内に投げ手の手が触れることなく入り、尚且つ犬もスローイングエリアに4本足が全て戻ってきた段階(注3)でポイント確定となる。

- 注1) シニアドッグ大会においては、キャッチ後犬がフリスビーを咥え7.5mラインを越えた時点でポイント確定とする。
 注2) フリスビーがスローイングエリア内に転がって入り、ライン上又は手前で犬が停止しフリスビーのみをスローイングエリア内に落とす、など。
 注3) フリスビーがスローイングエリア内に戻っている場合でも、スローイングエリア内に犬の4本足が全て入り戻る前に、投げ手がフリスビーに触れるとファールとなり、そのスローは無効となる

- ノーキャッチの場合、又は、場外へ出たフリスビーは触っても良い。
- 2投目以降、スロー前に必ず、犬がスタートライン9mコーン間内よりスローイングエリアに入らなければならず、そのまま次投した場合、そのスローは無効となる。ただし、スロー前であれば、犬を9mコーン間内よりスローイングエリア内に戻してからスローすれば有効、また、9mコーン間外よりスローイングエリアへ戻った場合は、どの位置からでもかまわないので一度インフィールド（0ポイントゾーン）へ犬を誘導（この場合も犬の4本足全てがインフィールドへ入るように誘導する。）し、再び9mコーン間よりスローイングエリアへ戻し直してからのスローは有効となる。但し、例外として場外に出たフリスビーを犬が持ち帰るなど、入退場口を通る、もしくはスローイングエリア後方(エンド)より、スローイングエリアに戻った場合のみ、9mコーン間への戻し直しの必要なく、コーン外回りままで次投有効とする。

- キャッチ後、ポイント確定前にfrisbeeに故意に触れる（手・足など問わず）事はファールとみなされ得点とはならない。
- 競技には、使用frisbee（交換用含む）以外、犬を呼び寄せるモノ（フード類・玩具類など）を持ち込んではいならない。（犬笛は指笛・口笛とみなし可）
- 競技中に糞尿行為のあった場合はその段階で失格となるが、それまでに獲得した得点は有効となる。但し、糞尿行為直前にキャッチした得点は犬がfrisbeeを咥え、スタートライン上9mコーン間からスローイングエリアに戻った後であれば有効となる。
- リードを使用する場合は、脱走や取り押さえがきかない場合のみの使用とし、キャッチ後犬がfrisbeeを咥えスタートライン上9mコーン間のスローイングエリア内に犬の4本足が全て入る前に触れた場合は、獲得ポイントは無効となる。犬の誘導時に、犬の体・首輪（カラー）に触れることは可能とする。ノーキャッチの場合のリードは触っても良い。

- ユースオープン大会は競技時間60秒。全チームでの2ラウンド制。決勝1ラウンド（下記決勝枠）にて行う。参加エントリー15チーム以上は決勝枠5チーム、参加エントリー10～14チームは決勝枠3チーム、9チーム以下は決勝は行いません。

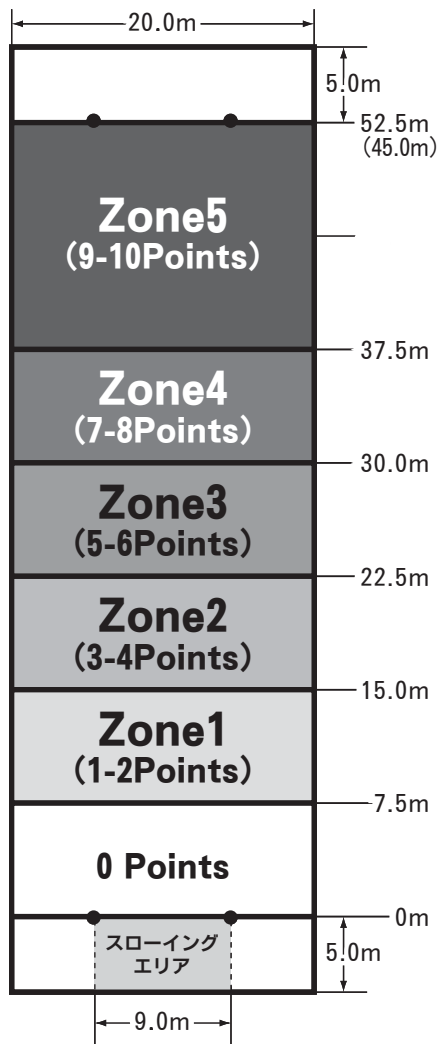
- シニアドッグ大会は、7歳以上の競技犬を対象とする。
- 競技時間は60秒。全チームでの2ラウンド制。（決勝ラウンドは行わない）
- シニアドッグ大会においては、キャッチ後犬がfrisbeeを咥え7.5mラインを越えた時点でポイント確定とする。

- ペア大会は競技時間90秒、1ラウンド制。
- 人もしくは犬が1大会に重複エントリーのある場合は、重複したチームが入賞内であっても、上位1チームのみが表彰対象となり、下位の重複しないチームが繰り上がり入賞となる。ファイナルポイントに関しては通常に加算される。
- ペアは大人と子供。男女。子供と子供。女性同士とする。
- 子供は小学生以下とする。
- 第1投目は、女性もしくは子供から投げなければならない。
- 次投プレイヤーが犬からfrisbeeを受け取らなければならない。

- スリーマンオープン大会（アトラクション競技）は、3名3頭（3チーム）で1チームを組み行うリレー競技。frisbeeディスクをバトンとし、競技時間2分15秒（45秒×3名）で行う。
- 各チーム1名以上は女性もしくは子供（小学生以下）を入れる。但し、子供もしくは女性ばかり3名の場合はチャレンジコート採点方式が適用され、ハンディキャップを設ける。
- 1ラウンド制で実施。3チームの合計獲得得点で順位を決定する。
- バトンタッチは前投者から次投者へ必ず手渡しで行い、前投者は直ちに自分の組んだ競技犬を係留しなくてはならない。
- 競技中以外の犬が、他ペアの競技中に乱入した場合、ファールとして乱入したペアの獲得得点が半分となる。（0ポイントの場合は0ポイントのまま）
- 競技中に糞尿行為のあった場合はその段階で失格とならないが、タイマーは止めない。但し、プレイヤーは糞の処理をしてからプレーを続行すること。



チャレンジコート使用競技



- **開催競技**
 - ・小型犬大会
 - ・チャレンジ大会

- **ポイントエリア**

| | |
|-----------------------|-------------|
| スタート～7.5m未満 | 0 ポイント |
| 7.5m～15.0m未満 | 1 / 2 ポイント |
| 15.0m～22.5m未満 | 3 / 4 ポイント |
| 22.5m～30.0m未満 | 5 / 6 ポイント |
| 30.0m～37.5m未満 | 7 / 8 ポイント |
| 37.5m～45.0mないし52.5m未満 | 9 / 10 ポイント |

奇数得点は通常（ランニング）キャッチでの得点を表すが、ジャンピングキャッチを行った場合は、それぞれのエリア毎に1得点が加算され偶数得点とする。すなわち3得点エリアでのジャンピングキャッチは4得点。最長エリアでのジャンピングキャッチは10得点となる。

- **競技ルール**

- 各ラウンドのスローイング方向はジャッジ判断により決定する。
- 選手・競技犬の他に1名までスローイングエリア内に入る事は出来るが、競技中にfrisbee（ディスク・ボールを含む。）や犬に触れる事、スローイングエリア外のインフィールドに入ることは出来ない。但し、競技前・競技後で犬を静止・係留する目的で触れる事は認める。
- スタート第1投目は必ずスタートライン9mコーン間内より犬が出て行かなければならない。（コーン外から犬がスタートした場合、再度スローイングエリア内に犬を呼び戻してのスローは有効）なお、2投目以降は9mコーン間外から犬が出て行ってもかまわない。
- キャッチ後犬がfrisbeeを咥えスタートライン上9mコーン間を越えてスローイングエリアに戻った段階、もしくは、手前でfrisbeeを犬が落とした場合（注1）に、スローイングエリア内に投げ手の手が触れることなく入り、尚且つ犬もスローイングエリアに4本足が全て戻ってきた段階（注2）でポイント確定となる。

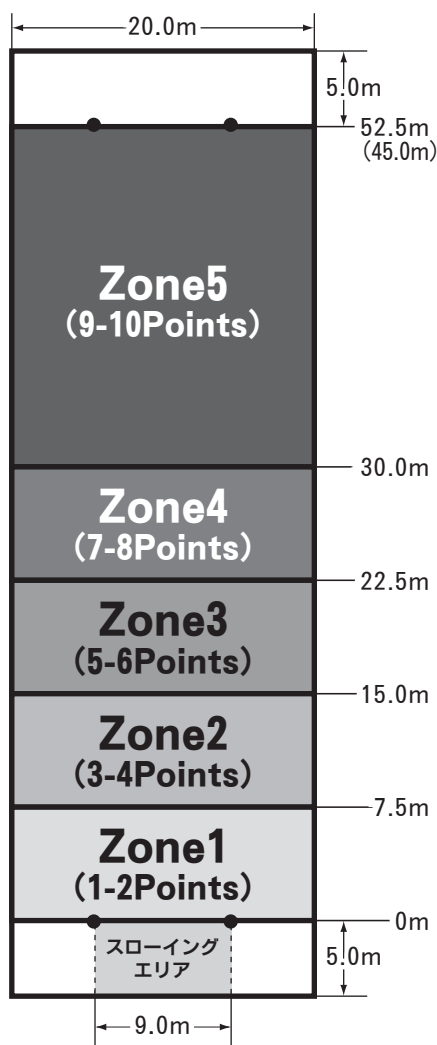
注1) frisbeeがスローイングエリア内に転がって入り、ライン上又は手前で犬が停止しfrisbeeのみをスローイングエリア内に落とす、など。
注2) frisbeeがスローイングエリア内に戻っている場合でも、スローイングエリア内に犬の4本足が全て入り戻る前に、投げ手がfrisbeeに触れるとファールとなり、そのスローは無効となる。

- 2投目以降、スロー前に必ず、犬がスタートライン9mコーン間内よりスローイングエリアに入らなければならない。そのまま次投した場合、そのスローは無効となる。但し、スロー前であれば、犬を9mコーン間内よりスローイングエリア内に戻してからスローすれば有効。また、9mコーン間外よりスローイングエリアへ戻った場合は、どの位置からでもかまわないので一度インフィールド（0ポイントゾーン）へ犬を誘導（この場合も犬の4本足全てがインフィールドへ入るように誘導する。）し、再び9mコーン間よりスローイングエリアへ戻し直してからのスローは有効となる。但し、例外として場外に出たfrisbeeを犬が持ち帰るなど、入退場口を通る、もしくはスローイングエリア後方（エンド）よりスローイングエリアに戻った場合のみ、9mコーン間への戻し直しの必要なく、コーン外回りままで次投有効とする。
- キャッチ後、ポイント確定前にfrisbeeに故意に触れる（手・足など問わず）事はファールとみなされ得点とはならない。
- 競技には、使用frisbee（交換用含む）以外、犬を呼び寄せるモノ（フード類・玩具類など）を持ち込んではいならない。（犬笛は指笛・口笛とみなし可）
- リードを使用する場合は、脱走や取り押さえがきかない場合のみの使用とし、ポイント確定前にリードに触れた場合は、そのスローは無効となる。犬の誘導時に、犬の体・首輪（カラー）に触れることは可能とする。但し、ノーキャッチの場合及び場外へ出たfrisbee・リードは触っても良い。

- 小型犬大会、チャレンジ大会は60秒、全チームでの2ラウンド制。（決勝ラウンドは行わない）
- チャレンジ大会において、年度中に5回優勝をしたチームは、チャレンジ大会に年度内は出られません。上位クラスへのステップアップをしていただきます。

Distance

ビギナーコート使用競技



● 開催競技

- ・ビギナー大会 ※スローイング講習会もセットで受講可能です。
- ・こども大会 (小学生以下対象)

● ポイントエリア

| | |
|-----------------------|-------------|
| スタート～7.5m未満 | 1 / 2 ポイント |
| 7.5m～15.0m未満 | 3 / 4 ポイント |
| 15.0m～22.5m未満 | 5 / 6 ポイント |
| 22.5m～30.0m未満 | 7 / 8 ポイント |
| 30.0m～45.0mないし52.5m未満 | 9 / 10 ポイント |

奇数得点は通常 (ランニング) キャッチでの得点を表すが、ジャンピングキャッチを行った場合は、それぞれのエリア毎に1得点が加算され偶数得点とする。すなわち3得点エリアでのジャンピングキャッチは4得点。最長エリアでのジャンピングキャッチは10得点となる。

また、ビギナー大会に於いては、空中キャッチできなくても持って帰れば奇数ポイント、空中キャッチしたものを持って帰れば偶数ポイントとする。

● 競技ルール

- 各ラウンドのスローイング方向はジャッジ判断により決定する。
- 選手・競技犬の他に1名までスローイングエリア内に入る事は出来るが、競技中にfrisbee (ディスク・ボールを含む。) や犬に触れる事、スローイングエリア外のインフィールドに入ることは出来ない。但し、競技前・競技後で犬を静止・係留する目的で触れる事は認める。
- スタート第1投目は必ずスタートライン9mコーン間内より犬が出て行かなければならない。(コーン外から犬がスタートした場合、再度スローイングエリア内に犬を呼び戻してのスローは有効) なお、2投目以降は9mコーン間外から犬が出て行ってもかまわない。
- スタートライン上9mコーン間を越えてスローイングエリアに戻った段階、もしくは、手前でディスクを犬が落とした場合(注1)に、スローイングエリア内に投げ手の手が触れることなく入り、尚且つ犬もスローイングエリアに4本足が全て戻ってきた段階(注2)でポイント確定となる。

注1) フリスビーがスローイングエリア内に転がって入り、ライン上又は手前で犬が停止しfrisbeeのみをスローイングエリア内に落とす、など。

注2) フリスビーがスローイングエリア内に戻っている場合でも、スローイングエリア内に犬の4本足が全て入り戻る前に、投げ手がfrisbeeに触れるとファールとなり、そのスローは無効となる。

- 2投目以降、スロー前に必ず、犬がスタートライン9mコーン間内よりスローイングエリアに入らなければならず、そのまま次投した場合、そのスローは無効となる。但し、スロー前であれば、犬を9mコーン間内よりスローイングエリア内に戻してからスローすれば有効、また、9mコーン間外よりスローイングエリアへ戻った場合は、どの位置からでもかまわないので一度インフィールド(1-2ポイントゾーン)へ犬を誘導(この場合も犬の4本足全てがインフィールドへ入るように誘導する。)し、再び9mコーン間よりスローイングエリアへ戻し直してからのスローは有効となる。但し、例外として場外に出たfrisbeeを犬が持ち帰るなど、入退場口を通る、もしくはスローイングエリア後方(エンド)よりスローイングエリアに戻った場合のみ、9mコーン間への戻し直しの必要なく、コーン外回りままで次投有効とする。
- キャッチ後、ポイント確定前にfrisbee (ディスクを含む) に故意に触れる(手・足など問わず)事はファールとみなされ得点とはならない。
- リードを使用する場合は、脱走や取り押さえがきかない場合のみの使用とし、ポイント確定前にリードに触れた場合は、そのスローは無効となる。犬の誘導時に、犬の体・首輪(カラー)に触れることは可能とする。但し、ノーキャッチの場合及び場外へ出たfrisbee・リードは触っても良い。

- こども大会は小学生以下のお子様を対象とし、60秒、全チームでの2ラウンド制。

- ビギナー大会は、60秒、全チームでの2ラウンド制。

- ビギナー大会は、frisbeeディスク以外の使用も可能(持ち込みのディスク、布製のディスク等)。但し、frisbeeディスクファーストバックタイプと同じ大きさ(直径23.5cm)・形状(ファーストバックタイプ)・素材(プラスチック製)に関しては、WHAM-O社製frisbeeディスクファーストバックタイプを使用してください。(類似ディスクは使用できません。)

- 空中キャッチしたものは偶数ポイント、空中キャッチできなくても持って帰れば奇数ポイントの得点獲得となる。



Distance

ファール

■ スローイングが無効となるもの ……………

● フットフォルト

- ・ 競技中に於いてスローイングの際にスタートラインに触れたり又は踏んだ場合、もしくはスタートラインよりはみ出した場合、そのスローイングは無効となります。
- ・ 同様に 9 m のスローイングエリア外からのスローイングも無効となります。

● ハンドリング

- ・ シニアドッグ大会を除く全ての競技は、キャッチ後犬がフリスビーを咥えスタートライン上 9 m コーン間を越えてスローイングエリアに戻った段階、もしくは、手前でフリスビーを犬が落とした場合（注1）に、スローイングエリア内に投げ手が触れることなく入り、尚且つ犬もスローイングエリアに 4 本足が全て戻ってきた段階（注2）でポイント確定となる。

注1) フリスビーがスローイングエリア内に転がって入る、ライン上又は手前で犬が停止しフリスビーのみをスローイングエリア内に落とす、など。

注2) フリスビーがスローイングエリア内に戻っている場合でも、スローイングエリア内に犬の 4 本足が全て入り戻る前に、投げ手がフリスビーに触れるとファールとなり、そのスローは無効となる

- ・ 犬の四本足が完全に、スタートラインを超えて戻りきる前に、フリスビーに故意に触ると（手・足など問わず）「ハンドリング」となり、そのスローは無効となります。
- ・ フリスビーが完全に、スタートラインを超えて戻りきる前に、リード（リード使用時）に触ると「ハンドリング」となり、そのスローは無効となります。

● ドッグファール

- ・ レディーゴー（競技開始）の合図の前に犬がスタートラインを超えていた場合、そのスローイングは無効となります。但し、犬を一旦スタートライン内に戻してからスローイングは有効となります。
- ・ レディーゴー（競技開始）の合図の後、1 投目に犬が 9 m コーン間外（コーン外回り）よりスタートをした場合、その後キャッチをしてもそのスローは無効となります。但し、犬を一旦スローイングエリア内に戻し、9 m コーン間より犬がスタートをした場合のスローイングは有効となります。
- ・ スローイングの前に、犬の四本足が完全に 9 m コーン間のスタートラインを越えてスローイングラインに戻らないと、次のスローイングが無効となります。
※犬の四本足が、完全にスタートライン内に戻らない状態でスローイングした場合、前投は「ハンドリング」、次投は「ドッグファール」となり、両方のスローが無効となります。
※シニアドッグ大会の場合、7.5m ラインでポイントが確定しますが、その後、9m コーン間より犬の四本足がスタートラインを超えてスローイングエリア内に戻りきらないままスローイングすると、次投が無効となります。

■ 競技が打ち切りとなるもの ……………

● タイムアウト

- ・ 競技中にフリスビーを取りに行く目的以外に犬が 10 カウント以上フィールド外に出た場合（場外脱走）失格となるがそれまで獲得した得点は有効となる。脱走時の得点は認められない。尚、10 カウントはジャッジの判断でおこないます。
- ・ 同ラウンド 2 回以上の場外脱走があった場合はその段階で競技終了となります。（失格）

● 糞尿行為

- ・ 競技中に糞尿行為のあった場合はその段階で競技打ち切りとなります。但し、それまでに獲得した得点は有効となる。
- ・ 糞尿行為とは、出た・出ないではなく、行為に入った段階とする。

tree フリスビー 公式フリーフライト選手権

● 競技方法

- ファーストステージは、90秒のTR/テクニカルルーティンステージ（規定演技）。
- セカンドステージは、120秒のFR/フリールーティンステージ（自由演技）。
- ファーストバックfrisbeeまたはMサイズドッグディスク 5枚使用

-
- セカンドステージへの進出は上位15チームが進出する。
 - ファーストステージ・セカンドステージの合計獲得点により順位を決定する。
⇒ファーストステージ・セカンドステージの合計獲得点と同ポイントの場合、セカンドステージの得点が高いチームが上位となる。なお、セカンドステージが同ポイントの場合はセカンドステージのディフィカルティ(難易度)の高いチームが上位となる。ディフィカルティが同ポイントの場合、セカンドステージのパーフェクション(完成度)・ファーストステージのパーフェクションの順で上位を判定する。
 - 競技には、使用frisbee以外、犬を呼び寄せるモノ（フード類・玩具類など）を持ち込んで서는ならない。（犬笛は指笛・口笛と同等とみなし可）また、競技中のリードの使用は禁止する。
 - 競技中に糞尿行為があった場合は失格とならないが、タイマーは止めない。但し、プレイヤーは糞の処理をしてからプレーを続行すること。
 - コート内に入れるのは、選手と競技犬のみとする。

●ファーストステージ【TR/テクニカルルーティンステージ】(規定演技)

- 90秒の規定演技（音楽スタートと同時にタイマースタート）
- ファーストバックfrisbeeまたはMサイズドッグディスク 5枚使用

《規定演技》

- スローイング（15メートル以上のスロー）[規定数 4]
バックハンドスロー・サイドスロー・エアバウンズ・アップサイドダウンなど、スローイング種類は問わない。
⇒あたたかも15メートルに満たないスローイングは規定投数に含まれない。ローラー・スキップは含まない。
- 5（ファイブ）マルチプル [規定数 1]
5投を1トリックとする。
⇒frisbeeディスクまたはMサイズドッグディスク 5枚を使ったスピード感ある連続技の成功をひとつのトリックとして採点する。（1枚でもノーキャッチの場合は5マルチプルとみなされない。）また、最後の1投を他規定項目のトリックを行った場合は、マルチにはならない。（規定外投球4+他規定項目の採点となる。）
※スピード感あるとは、5秒間に5枚の速さを基準とする。
- フロントフリップ [規定数 2]
⇒2/3回転・1/2回転など不完全なフリップでも規定数トライとし規定クリアとなり採点される。
- バックフリップ [規定数 2]
⇒2/3回転・1/2回転など不完全なフリップでも規定数トライとし規定クリアとなり採点される。
- オーバー系 [規定数 4]
グラウンドオーバー・レッグオーバー・リバースレッグオーバーなど
⇒体の一部をオーバーした（飛び越す）場合を規定トリックとする。例えばレッグオーバーの場合、オーバーする瞬間に足を下すのは（擬似オーバー）規定トリックとみなさない。
- ボルト系 [規定数 3]
バックボルト・ニーボルトなど、人のからだを犬が踏み台として行うトリック。
⇒人間の体制を低くしてもよい。なお、カタパルト・チェストもボルト系として規定採点に含む。

規定演技に関しては、日本frisbeedog協会発売の「犬といっしょにfrisbeeであそぼう!」（定価1,890円）をテキストとしてご使用ください。



《採点方法》

- JFA独自の採点基準により3名のジャッジにて、下記の3項目を採点。
 - ・パーフェクション（完成度）は、2名のジャッジが採点。
 - ・リーピング（飛び跳ね）は、1名のジャッジが採点。
 - ・ショーマンシップ（独創性・総合評価）は、3名のジャッジが採点。
 - ・合計得点の高いチームが上位となる。

《採点基準》

- ミュージック
各競技者が独自に選択し、CDに限り使用とする。
※ CDには、名前・愛犬名・使用音楽のNoをあらかじめ記載のこと。
- パーフェクション（完成度）
規定演技・投数条件（5項目合計20投）クリアをもとに、キャッチ率を考慮した上で、各規定演技の技の完成度（スロー精度・トスの正確性・ディスクの飛行状態・ディスクと犬との距離・犬の滞空状態・犬のキャッチ体勢・キャッチ後の犬の着地体勢など）を評価する。
- リーピング（犬自身の飛び・跳ねなど）… 文章中ではジャンプという言葉で表現
その犬の種類のサイズなどを考慮した上で、ジャンプの高さ、幅、ジャンプ時のひねりとその時の速さを含め、跳躍力や躍動感を評価する。（犬自身のジャンプ能力が審査対象となる為、競技者の体を踏み台にしてのトリックは審査対象外となる。）なお、リーピングについては規定項目に関係なく、すべてのトリックについて審査する。
- ショーマンシップ
ルーティンの組み合わせ方の独創性や演技の円滑さ（テンポある流れ・メリハリのある演技・刺激的な演技など）
・フィールドコントロール・ファイナルポジション（演技終了時）を考慮し全体的な印象で評価する。
※注意…全投数が20投に満たない場合は、ショーマンシップにおいて減点対象となる。

●セカンドステージ 【FR/フリールーティンステージ】(自由演技)

- 120秒の規定演技（音楽スタートと同時にタイマースタート）
- ファーストバックフリスビーまたはMサイズドッグディスク5枚使用

《採点方法》

- JFA独自の採点基準により3名のジャッジにて、下記の4項目を採点。
 - ・ディフィカルティ（難易度）は、1名のジャッジが採点。
 - ・パーフェクション（完成度）は、1名のジャッジが採点。
 - ・リーピング（飛び跳ね）は、1名のジャッジが採点。
 - ・ショーマンシップ（独創性・総合評価）は、3名のジャッジが採点。
 - ・合計得点の高いチームが上位となる。

《採点基準》

- ミュージック
各競技者が独自に選択し、CDに限り使用とする。
※ CDには、名前・愛犬名・使用音楽のNoをあらかじめ記載のこと。
- ディフィカルティ（難易度）
その犬の種類のサイズなどを考慮した上で、成功したトリック（技）の難易度の数で得点を決める。
- パーフェクション（完成度）
その犬の種類のサイズなど、成功率（キャッチ率）も考慮した上でのトリック（技）の完成度（スロー精度・トスの正確性・ディスクの飛行状態・ディスクと犬との距離・犬の滞空状態・犬のキャッチ体勢・キャッチ後の犬の着地体勢など）にて評価する。
- リーピング（犬自身の飛び・跳ねなど）… 文章中ではジャンプという言葉で表現
その犬の種類のサイズなどを考慮した上で、ジャンプの高さ、幅、ジャンプ時のひねりとその時の速さを含め、跳躍力や躍動感を評価する。（犬自身のジャンプ能力が審査対象となる為、競技者の体を踏み台にしてのトリックは審査対象外となる。）
- ショーマンシップ
ルーティンの組み合わせ方の独創性や演技の円滑さ（テンポある流れ・メリハリのある演技・刺激的な演技など）
・フィールドコントロール・ファイナルポジション（演技終了時）を考慮し全体的な印象で評価する

D. Free パフォーマンスフリー

● 競技方法

- 90秒の1ステージ制。
- ミュージックスタート同時に90秒のタイム計測とする。(音楽CDは各チームご用意ください。)
- 人と犬とのユーモラスなコミュニケーションを表現し、一番素晴らしい演技とパフォーマンス性(衣装・音楽etc)が高かったチームが優勝。

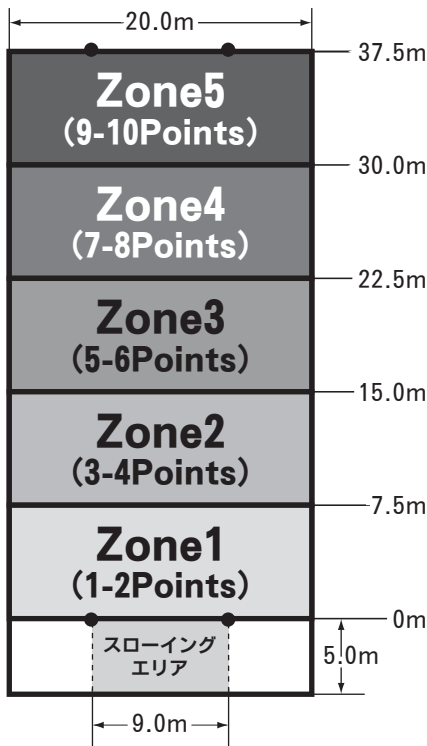
-
- 競技に於いてはfrisbeeを使用しなくてもよい。(危険物および鳴り物以外のおもちゃ類・小道具持ち込み可能)
 - JFA独自の採点基準により、3名のジャッジにて下記の3項目を採点する。
 - ・完成度
 - ・オリジナリティ(独創性・表現力)
 - ・コミュニケーション(チームワーク)
 - ・各項目を10点満点とし、合計得点の高いチームが上位となる。
 - 競技中に糞尿行為があった場合は失格とならないが、タイマーは止めない。但し、プレイヤーは糞の処理をしてからプレーを続行すること。
 - コート内に入れるのは、選手と競技犬のみとする。

Long Distance 公式ロングディスタンス記録会

● 競技方法

- 90秒1ラウンド制。(最長距離のみ計測を行う)
- 会場の都合により異なるケースがあるが、スタートは基本的に風上からとする。コース扇型に左右均等に開けるように設定をする。コース設定によってはこの限りではない。
- スタートラインの幅は5mとし、スローイングエリアのバックヤードは最低10mを確保する。
- 計測はスローイングをした投者の体の前方スタートライン上から、キャッチ時の地面に着地したfrisbeeディスクに近い前足までとする。
- ★ 競技犬がfrisbeeディスクを1度でも弾いた場合、その後キャッチをしても無効となり記録にはならない。
- 制限時間内であれば、何投でも行える。
- 競技には、使用frisbee(交換用含む)以外、犬を呼び寄せるモノ(フード類・玩具類など)を持ち込んではない。(犬笛は指笛・口笛とみなし可)また、競技中のリードの使用は禁止する。
- 競技中に糞尿行為のあった場合はその段階で失格とならないが、タイマーは止めない。但し、プレイヤーは糞の処理をしてからプレーを続行すること。
- 選手と競技犬以外に補助約として1名まで認めるが、frisbeeに触れる事は出来ない。

トライアルボールドッグゲーム



● クラス分け

- ・オープンクラス (OP.CLASS)
… 体高・体重などの制限なしの無差別級
- ・小型スタンダードクラス (SD.CLASS)
… 体高40cm以下の成犬もしくは子犬
- ・スーパーミニクラス (SS.CLASS)
… 体高25cm以下、もしくは、体重7kg未満の成犬もしくは子犬

※子犬の場合は、規定体高・体重を超えた時点で出場できなくなります。
 ※各クラスともリードの使用は可能とするが、使用する場合はリードを使用する際の規定に準じます。(下記参照)
 ※体高とは、首の付け根(背側)までの高さをいいます。

● ポイントエリア

| | |
|---------------|------------|
| スタート～7.5m未満 | 1 ポイント |
| 7.5m～15.0m未満 | 3 ポイント |
| 15.0m～22.5m未満 | 5 ポイント |
| 22.5m～30.0m未満 | 7 ポイント |
| 30.0m～37.5m未満 | 9 ポイント |
| 37.5m以上 | 0 ポイント(場外) |

ボールが37.5m以上を超えた場合やコートサイドから出た場合は、アウトとしノーポイントとなる。

- 全チームでの60秒2ラウンド制。2ラウンドの合計ポイントで上位を決定。
- スタートライン上中央部分の9メートルコーン間より投げ、犬もその間からスタートする。
- 持ち帰りは、投げ手が故意的に触れることなく犬がボールをくわえた状態で9メートルコーン間よりスローイングエリアに四本足が全て戻ってきた段階で得点獲得とする。投げ手が故意的に触れることなく手前で犬がボールを離し転がり入る場合も9メートルコーン間であり、尚且つ9メートルコーン間よりスローイングエリアに犬の四本足が全て戻ってきた段階で得点獲得とする。9mコーン間外よりスローイングエリアへ戻った場合は、どの位置からでもかまわないので一度インフィールド(1-2ポイントゾーン)へ犬を誘導(この場合も犬の4本足全てがインフィールドへ入るように誘導する。)し、再び9mコーン間よりスローイングエリアへボールと犬の四本足全てを戻し直せば得点獲得となる。但し、例外として場外に出たボールを犬が持ち帰る場合など、入退場口から戻る、もしくはスローイングエリア後方(エンド)よりスローイングエリアに戻ってきた場合のみ、9mコーン間への戻し直しの必要なく、コーン外回りままで次投有効とする。
- 持ち帰りに失敗した場合でも、次投を行うには一旦スローイングエリアに犬を戻さなければならない。2投目以降は、9メートルコーン間の外を回って犬がスタートしてもかまわない。
- ポイント確定前に投者がボールに故意に触れた場合(手・足など問わない) ファールとみなされ得点にはならない。
- 競技中に糞尿行為のあった場合はその段階で失格となるが、それまでに獲得した得点は有効となる。
- リードを使用する場合は、脱走や取り押さえがきかない場合のみの使用とし、ポイント確定前にリードに触れた場合は、その得点は無効となる。犬の誘導時に、犬の体・首輪(カラー)に触れることは可能とする。但し、ノーキヤッチの場合及び場外へ出たボール・リードは触っても良い。
- 各クラスにおける体高・体重制限は、エントリー時点で自己申告といたしますが、ご不明な方は会場にて計測機を用意していますので、ご自身で計測し、参加クラスを決定して下さい。なお、入賞順位決定後計測する場合もあります。その後、サイズオーバーがあった場合は入賞資格を失い、順位の繰り上がり処置を行います。

Final Point

ファイナルポイント早見表

| 公式シリーズ選手権 | | | |
|-----------|--------|-------|------|
| | 参加チーム数 | | |
| | 25~39 | 40~59 | 60以上 |
| 1 | 25 | 25 | 25 |
| 2 | 20 | 20 | 20 |
| 3 | 15 | 15 | 15 |
| 4 | 12 | 12 | 12 |
| 5 | 9 | 9 | 9 |
| 6 | 7 | 7 | 7 |
| 7 | 6 | 6 | 6 |
| 8 | 3 | 3 | 3 |
| 9 | 3 | 3 | 3 |
| 10 | 3 | 3 | 3 |
| 11 | 2 | 3 | 3 |
| 12 | 2 | 3 | 3 |
| 13 | 2 | 3 | 3 |
| 14 | 2 | 3 | 3 |
| 15 | 2 | 3 | 3 |
| 16 | 1 | 2 | 3 |
| 17 | 1 | 2 | 3 |
| 18 | 1 | 2 | 3 |
| 19 | 1 | 2 | 3 |
| 20 | 1 | 2 | 3 |
| 21 | 0.5 | 1 | 3 |
| 22 | 0.5 | 1 | 3 |
| 23 | 0.5 | 1 | 3 |
| 24 | 0.5 | 1 | 3 |
| 25 | 0.5 | 1 | 3 |
| 26 | 0.5 | 1 | 2 |
| 27 | 0.5 | 1 | 2 |
| 28 | 0.5 | 1 | 2 |
| 29 | 0.5 | 1 | 2 |
| 30 | 0.5 | 1 | 2 |
| 31 | 0.5 | 0.5 | 1 |
| 32 | 0.5 | 0.5 | 1 |
| 33 | 0.5 | 0.5 | 1 |
| 34 | 0.5 | 0.5 | 1 |
| 35 | 0.5 | 0.5 | 1 |
| 36 | 0.5 | 0.5 | 1 |
| 37 | 0.5 | 0.5 | 1 |
| 38 | 0.5 | 0.5 | 1 |
| 39 | 0.5 | 0.5 | 1 |
| 40 | | 0.5 | 1 |
| 41 | | 0.5 | 1 |
| 42 | | 0.5 | 1 |
| 43 | | 0.5 | 1 |
| 44 | | 0.5 | 1 |
| 45 | | 0.5 | 1 |
| 46~ | | 0.5 | 0.5 |

※公式シリーズ選手権成立チーム数は25チーム以上
(但し1オーナー2チーム目を含まない20オーナー以上)が成立となる。

| 公式オープン選手権 | | | | | |
|-----------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 参加チーム数 | | | | |
| | 10~14 | 15~19 | 20~34 | 35~49 | 50以上 |
| 1 | 5 | 10 | 15 | 15 | 15 |
| 2 | 3 | 6 | 12 | 12 | 12 |
| 3 | 2 | 4 | 9 | 9 | 9 |
| 4 | 1 | 2 | 7 | 7 | 7 |
| 5 | 1 | 2 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 0.5 | 1 | 3 | 3 | 3 |
| 7 | 0.5 | 1 | 3 | 3 | 3 |
| 8 | 0.5 | 1 | 2 | 3 | 3 |
| 9 | 0.5 | 1 | 2 | 3 | 3 |
| 10 | 0.5 | 1 | 2 | 3 | 3 |
| 11 | 0.5 | 0.5 | 1 | 2 | 3 |
| 12 | 0.5 | 0.5 | 1 | 2 | 3 |
| 13 | 0.5 | 0.5 | 1 | 2 | 3 |
| 14 | 0.5 | 0.5 | 1 | 2 | 3 |
| 15 | | 0.5 | 1 | 2 | 3 |
| 16 | | 0.5 | 1 | 2 | 3 |
| 17 | | 0.5 | 1 | 2 | 3 |
| 18 | | 0.5 | 1 | 2 | 3 |
| 19 | | 0.5 | 1 | 2 | 3 |
| 20 | | | 1 | 2 | 3 |
| 21 | | | 0.5 | 1 | 2 |
| 22 | | | 0.5 | 1 | 2 |
| 23 | | | 0.5 | 1 | 2 |
| 24 | | | 0.5 | 1 | 2 |
| 25 | | | 0.5 | 1 | 2 |
| 26 | | | 0.5 | 1 | 1 |
| 27 | | | 0.5 | 1 | 1 |
| 28 | | | 0.5 | 1 | 1 |
| 29 | | | 0.5 | 1 | 1 |
| 30 | | | 0.5 | 1 | 1 |
| 31 | | | 0.5 | 0.5 | 1 |
| 32 | | | 0.5 | 0.5 | 1 |
| 33 | | | 0.5 | 0.5 | 1 |
| 34 | | | 0.5 | 0.5 | 1 |
| 35 | | | | 0.5 | 1 |
| 36 | | | | 0.5 | 1 |
| 37 | | | | 0.5 | 1 |
| 38 | | | | 0.5 | 1 |
| 39 | | | | 0.5 | 1 |
| 40 | | | | 0.5 | 1 |
| 41~ | | | | 0.5 | 0.5 |

※公式オープン選手権成立最低チーム数は20チーム以上。
15~19チームの場合は決勝ラウンドを3チームにて行う。(3チーム決勝の場合の表彰は1位トロフィーと賞状、2位・3位は賞状のみ)
14チーム以下の場合は決勝ラウンドは行いません。

公式オープン選手権は20チーム以上にて成立ですが、陸続きではない北海道並びに初開催を含む、フリスビードッグ競技者が少ない地域における開催で、本部が必要と認めた場合のみ適用するポイント表です。

| 公式小型選手権 | | | |
|---------|--------|-------|------|
| | 参加チーム数 | | |
| | 5~9 | 10~14 | 15以上 |
| 1 | 5 | 10 | 10 |
| 2 | 3 | 7 | 7 |
| 3 | 2 | 5 | 5 |
| 4 | 1 | 2 | 4 |
| 5 | 1 | 2 | 3 |
| 6 | 0.5 | 1 | 2 |
| 7 | 0.5 | 1 | 2 |
| 8 | 0.5 | 1 | 1 |
| 9 | 0.5 | 1 | 1 |
| 10 | | 1 | 1 |
| 11 | | 0.5 | 1 |
| 12 | | 0.5 | 1 |
| 13 | | 0.5 | 1 |
| 14 | | 0.5 | 1 |
| 15 | | | 1 |
| 16~ | | | 0.5 |

※公式小型選手権成立最低チーム数は5チーム以上。
5~14チームの場合は決勝ラウンドを3チームにて行う。
(5~9チームで3チーム決勝の場合、表彰は1位トロフィーと賞状、2位・3位は賞状のみ)

| 公式クイーンズ選手権 | | |
|------------|----------|---------|
| | 参加チーム数 | |
| | 15~29チーム | 30チーム以上 |
| 1 | 20 | 20 |
| 2 | 15 | 15 |
| 3 | 12 | 12 |
| 4 | 9 | 9 |
| 5 | 7 | 7 |
| 6 | 5 | 5 |
| 7 | 4 | 4 |
| 8 | 3 | 3 |
| 9 | 3 | 3 |
| 10 | 3 | 3 |
| 11 | 2 | 3 |
| 12 | 2 | 3 |
| 13 | 2 | 3 |
| 14 | 2 | 3 |
| 15 | 2 | 3 |
| 16 | 1 | 2 |
| 17 | 1 | 2 |
| 18 | 1 | 2 |
| 19 | 1 | 2 |
| 20 | 1 | 2 |
| 21 | 0.5 | 1 |
| 22 | 0.5 | 1 |
| 23 | 0.5 | 1 |
| 24 | 0.5 | 1 |
| 25 | 0.5 | 1 |
| 26 | 0.5 | 1 |
| 27 | 0.5 | 1 |
| 28 | 0.5 | 1 |
| 29 | 0.5 | 1 |
| 30 | | 1 |
| 31~ | | 0.5 |

※公式クイーンズ選手権成立最低チーム数は15チーム以上。

| 公式レディース選手権 | | | | | |
|------------|--------|-------|-------|-------|------|
| | 参加チーム数 | | | | |
| | 5~9 | 10~14 | 15~19 | 20~34 | 35以上 |
| 1 | 5 | 10 | 15 | 15 | 15 |
| 2 | 3 | 7 | 12 | 12 | 12 |
| 3 | 2 | 5 | 9 | 9 | 9 |
| 4 | 1 | 2 | 7 | 7 | 7 |
| 5 | 1 | 2 | 5 | 5 | 5 |
| 6 | 0.5 | 1 | 2 | 3 | 3 |
| 7 | 0.5 | 1 | 2 | 3 | 3 |
| 8 | 0.5 | 1 | 2 | 3 | 3 |
| 9 | 0.5 | 1 | 1 | 3 | 3 |
| 10 | | 1 | 1 | 3 | 3 |
| 11 | | 0.5 | 1 | 2 | 3 |
| 12 | | 0.5 | 1 | 2 | 3 |
| 13 | | 0.5 | 1 | 2 | 3 |
| 14 | | 0.5 | 1 | 2 | 3 |
| 15 | | | 1 | 2 | 3 |
| 16 | | | 0.5 | 1 | 2 |
| 17 | | | 0.5 | 1 | 2 |
| 18 | | | 0.5 | 1 | 2 |
| 19 | | | 0.5 | 1 | 2 |
| 20 | | | | 1 | 2 |
| 21 | | | | 0.5 | 1 |
| 22 | | | | 0.5 | 1 |
| 23 | | | | 0.5 | 1 |
| 24 | | | | 0.5 | 1 |
| 25 | | | | 0.5 | 1 |
| 26 | | | | 0.5 | 1 |
| 27 | | | | 0.5 | 1 |
| 28 | | | | 0.5 | 1 |
| 29 | | | | 0.5 | 1 |
| 30 | | | | 0.5 | 1 |
| 31~ | | | | 0.5 | 0.5 |

※公式レディース選手権成立最低チーム数は5チーム以上。
5~14チームの場合は決勝ラウンドを3チームにて行う。
(5~9チームで3チーム決勝の場合、表彰は1位トロフィーと賞状、2位・3位は賞状のみ)

「同一犬・同一オーナー」が決勝進出となった場合、いずれか1チームのみが決勝進出とします。ただし、決勝辞退チームのファイナルポイントは、予選順位に従って、表内のファイナルポイントを与えるものとします。

例) 公式クイーンズ選手権予選3位チームが決勝進出を辞退した場合、ファイナルポイント12ポイントが与えられます。



日本フリスビードッグ協会

〒951-8133 新潟県新潟市川岸町3丁目17番29号
TEL.025-234-2100 FAX.025-234-2101

URL <http://www.frisbeedog.co.jp/>